

# 沖縄県における MICE誘致・開催の取組み

第16回 国際会議等各種会議の  
沖縄開催の推進に係る各省庁連絡会議  
平成25年6月12日(水)

沖縄県 文化観光スポーツ部



# 1. 政府施策と沖縄振興の方向性

■安倍総理大臣 施政方針演説(平成25年2月29日)  
「沖縄に世界一のイノベーション拠点を創造」

■観光立国推進閣僚会議「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」(平成25年6月11日)

国際会議等のMICEの誘致・開催推進は、海外の人と知恵を我が国に呼び込む重要なツールであり、ビジネス機会の創出・イノベーションの創出や地域への大きな経済効果を生み出し、都市の競争力・ブランド力を向上するといった幅広い意義を有する。

■沖縄21世紀ビジョン基本計画(平成24年5月15日)

(4) 21世紀「万国津梁」実現の基盤づくり

アジアをはじめ世界との新たな連携・強力関係を構築するため、文化、教育、経済、科学技術、環境、医療、平和などの分野で多元的交流を推進することにより、我が国及びアジア・太平洋地域の平和と持続的発展に貢献する交流ネットワークを構築

## 2. 沖縄県の方針

### 1. 沖縄21世紀ビジョン

- ・県民の参画と協働のもとに、将来(概ね2030年)のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにする基本構想。
- ・沖縄県として初めて策定した長期構想で、沖縄の将来像の実現を図る県民一体となった取り組みや、これから県政運営の基本的な指針となる。

#### ●(3)「希望と活力にあふれる豊かな島」推進戦略

##### 3) 沖縄新・リーディング産業育成

- ・県内のリゾート地域の中で、リゾートコンベンション産業(MICE※等)、滞在型リゾート産業(長期宿泊産業、体験学習サービス業等)を重点的に振興していく。

#### ●(4)「世界に開かれた交流と共生の島」推進戦略

##### 3) 科学の振興と知の集積による国際貢献拠点形成

- ・沖縄をハブとするアジア域内での知的交流機会(国際会議等)の拡大、及びそれを支えるMICE産業の重点的な振興を図る。

## 2. 沖縄県の方針

### 2. 誘致ターゲット

#### ●政府等が関与する国際会議等のMICE

「国際会議等各種会議の沖縄開催の推進について」(H12年6月20日閣議了解)に基づき、政府及び関係機関が開催する国際会議等のMICE

→MICE開催地としてのブランド力や都市のステータスの向上を図る

「地球温暖化防止とサンゴ礁保全に関する国際会議」(H25年6月開催)

「日中韓サミット」(H26年(未定)) 「第7回 太平洋・島サミット」(H27年予定)

「G8サミット」(H28年(未定))

#### ●沖縄21世紀ビジョンに掲げる各戦略の推進に寄与する情報発信力の高いMICE

観光、文化、スポーツ、航空・空港、物流、日中韓等アジア、健康・長寿、科学技術、保健、海洋・島嶼、環境等をテーマにしたMICE

→ネットワークの機会提供、ビジネスチャンスの創出効果により、主要戦略の推進を後押しする

「日中観光交流会議」(H24年:開催済) 「日ASEAN次官級交通政策会合」(H24年:開催済)

「太平洋島嶼地域海洋環境シンポジウム」(H24年:開催済)

「Routes Asia 2015」(H27年(予定))

#### ●高い経済波及効果が見込まれるMICE

①企業インセンティブツアー ②エグゼクティブミーティング

③医科学系のコンベンション ④大型イベント・コンベンション

→「世界水準のリゾート地」としての沖縄県の地位確立に寄与する

「日本小児救急医学学術集会」(H25年:決定済) 「アジア弁理士協会総会」(H27年:決定済)

「全日本不動産会議」(H27年(未定))

## 2. 沖縄県の方針

### 3. 開催実績

#### ●沖縄で開催されたMICE

※1 沖縄コンベンションセンター、万国津梁館での開催件数のみ

※2 MICE参加者数とは、海外及び県外からのMICE参加者数を指す

	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
MICE開催件数 (件)	720	637	598	486	531
MICE参加者数 (人)	71,695	76,709	67,986	66,195	85,953

## 2. 沖縄県の方針

### 3. 開催実績

#### ●沖縄で開催された国際会議

(件)

	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
沖縄コンベンションセンター	11	14	12	16	9
万国津梁館	13	15	13	22	25
その他会場	28	34	34	47	31
合 計	52	63	59	85	65

#### ●沖縄で開催された政府又は国際団体主催の国際会議

(件)

	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
計	10	11	19	14	18

※ ここでいう国際会議とは「10名以上の外国人参加者のある会議」とする

## 2. 沖縄県の方針

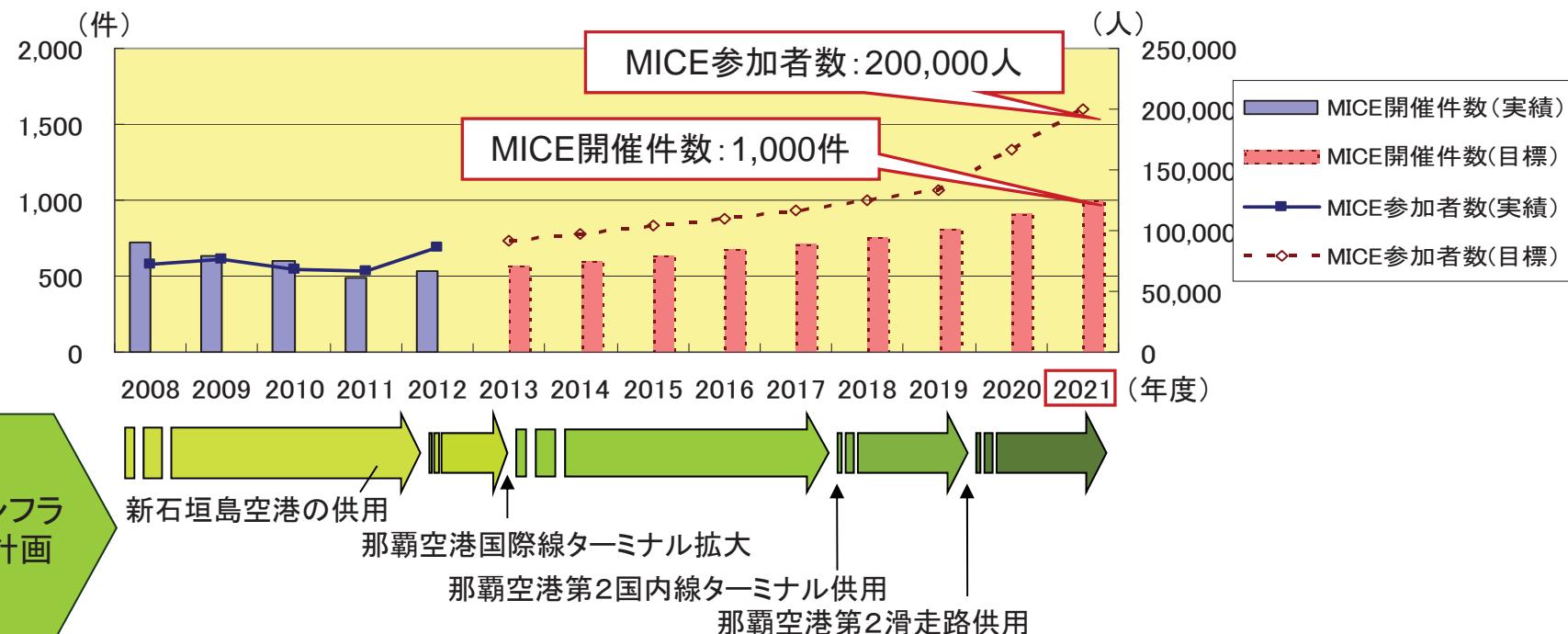
### 4. 今後の目標

#### ●2021年度(H33年度)目標(沖縄21世紀ビジョン実施計画)

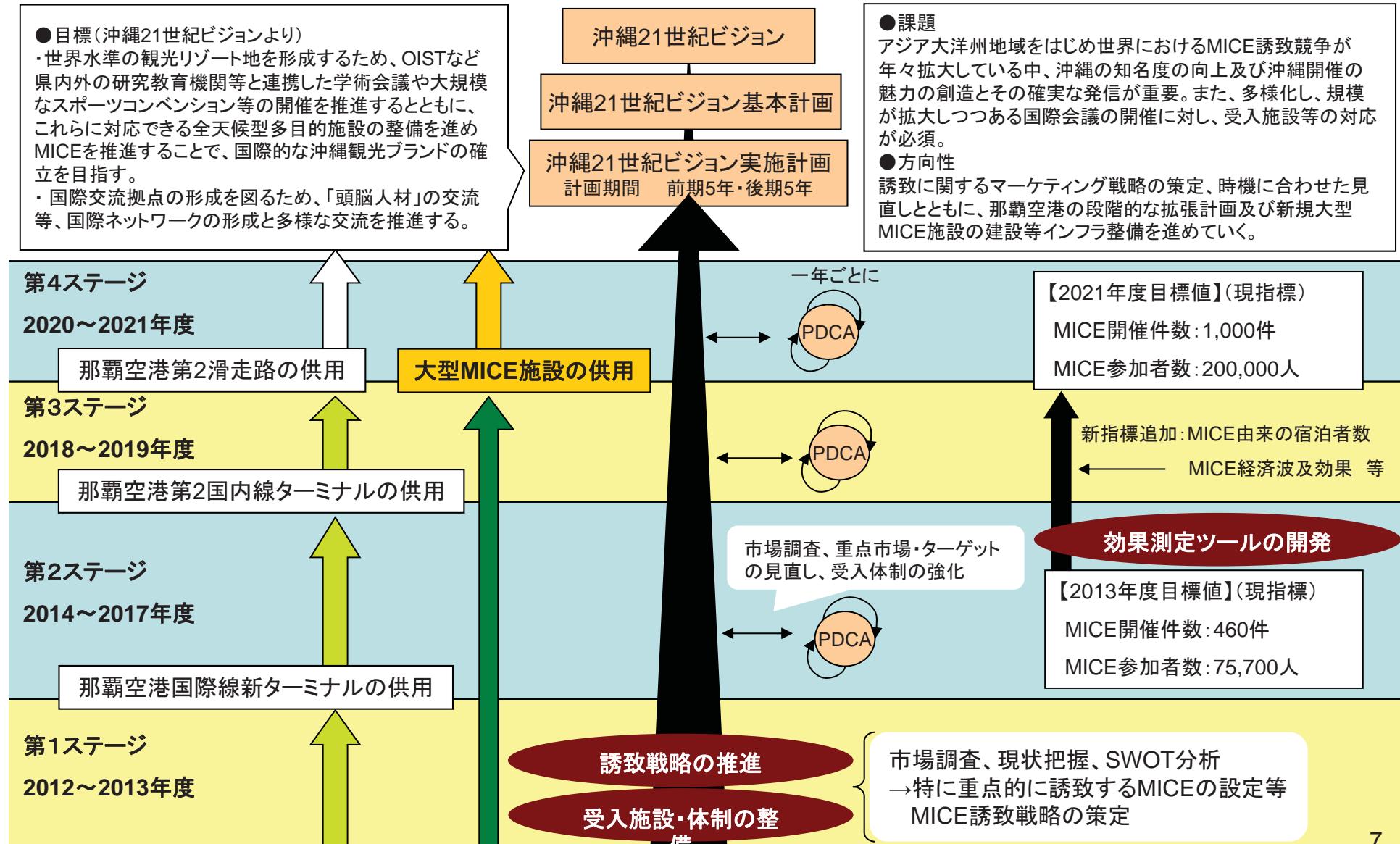
- ・MICE開催件数:1,000件
- ・MICE参加者数:200,000人

※1 沖縄コンベンションセンター、万国津梁館での開催件数のみ

※2 MICE参加者数とは、海外及び県外からのMICE参加者数を指す



## 2. 沖縄県の方針



## 3. 沖縄開催のメリット

### 1. 参加者の増加

#### 参加者側

##### ●開催地が沖縄ならば参加を希望

- ・沖縄で会議を開催すると、他地域の会議より参加者が3~5割増になる。沖縄は、参加者にとって非常に人気の高い地域。  
(琉球大学教授よりヒアリング)

#### 【参考】

- ・医学系国内学会(2011年9月開催)  
参加者数:250名(例年より25%増) ※例年200名前後

→ より満足度の高い会議の開催

#### 主催者側

##### ●特色のある印象深い会議にできる

## 3. 沖縄開催のメリット

### 2. 観光地としての魅力を活かした多面的な現地体験

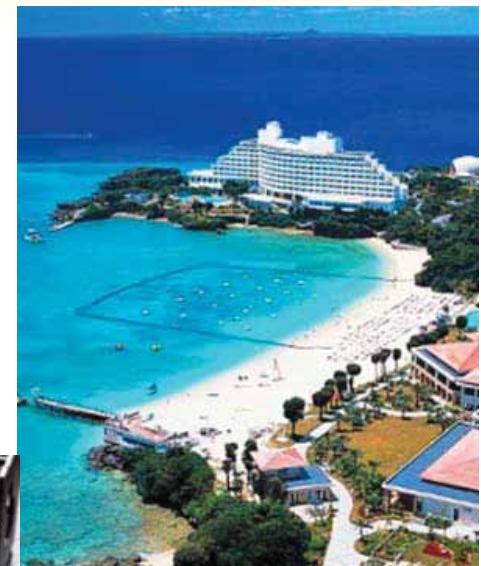
#### ●「日本で開催」というメリット

安心・安全な環境、スムーズな会議運営、日本料理など伝統文化体験



#### ●「沖縄での開催」により日本の多様性を強調

日本の中のリゾート地、ユニークな歴史・文化・芸能

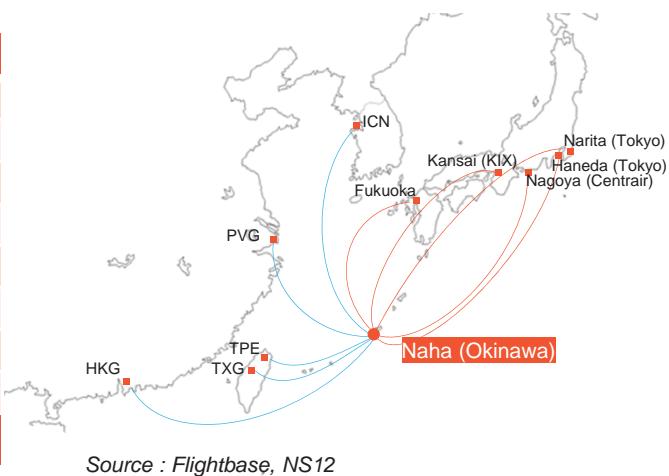


# 4. アクセス状況

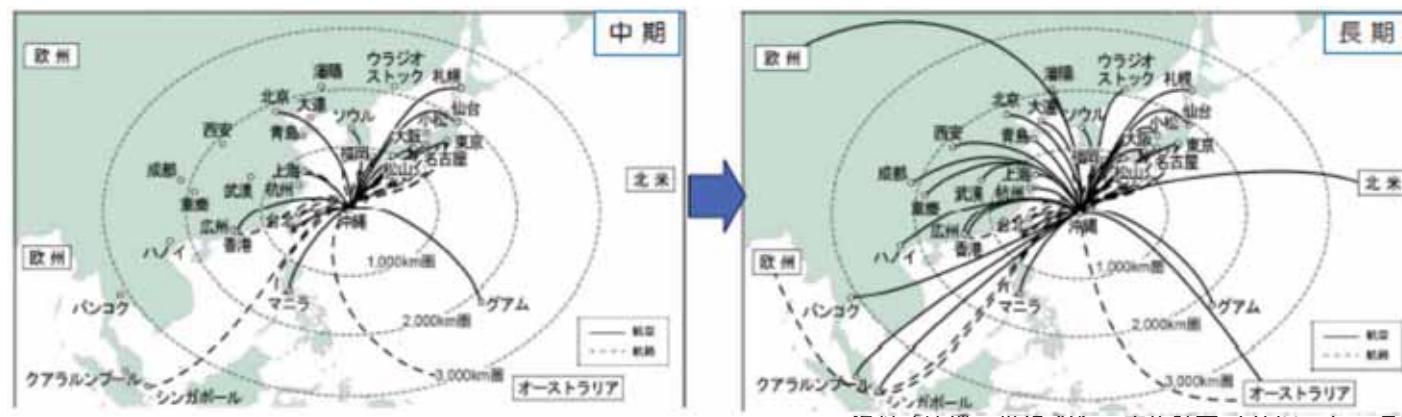
## 1. アジアとの連結

### ●国際航空路線の現状

Destination	Airline	Weekly Freq	Weekly Seats
TPE	CI	14	2,042
	GE	7	808
HKG	KA	4	667
	UO	7	1,166
ICN	OZ	7	1,258
	LJ	5	948
PVG	MU	7	490
TXG	AE	2	117
<b>Total</b>		<b>7,496</b>	



### ●国際ネットワークの拡大イメージ



資料：「沖縄21世紀ビジョン実施計画」より(H25年10月)

# 5. 多様なニーズへの対応

## 1. 多種多様な会議場

### ●沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)

展示場、劇場、会議場、分科会場等複数の機能を複合した県内最大規模のMICE施設。最大収容人数:4,000名(展示場・シアター形式)



### ●万国津梁館(名護市)

「九州・沖縄サミット」会場となったラグジュアリーリゾート型MICE施設。  
最大収容人数:500名(サミットホール・シアター形式)



### ●沖縄大学院大学(OIST)(恩納村)

各国から研究者が集う世界に開かれた研究教育機関。空港からのシャトルバスが手配可能(要調整)。  
最大収容人数:496名(講堂)

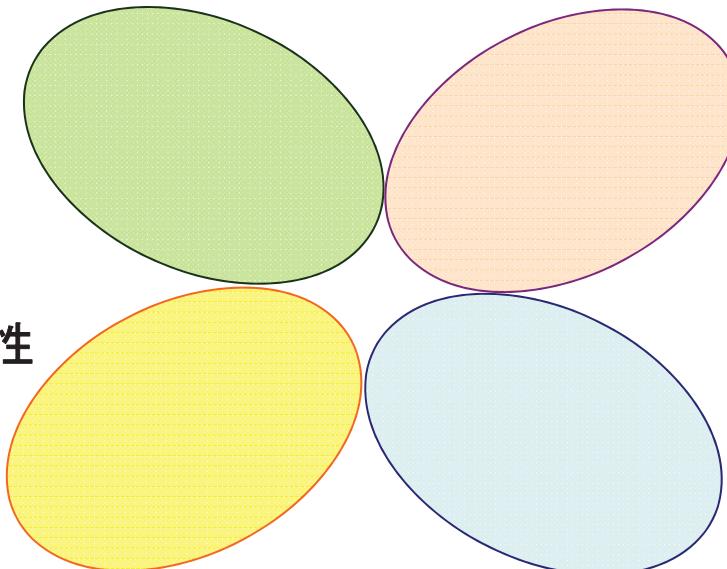


## 5. 多様なニーズへの対応

### 2. 多種多様な宿泊施設

#### ●グローバルブランド

世界的に認知されているブランドで高い品質のサービスを提供。高いニーズ対応力やノウハウを持つ。



#### ●日本のおもてなし

満足度の高いホスピタリティを提供。リゾートとしてのコンテンツを提供しつつ、運営の面で主催者にも安心感がある。

#### ●ビジネス利用時の利便性

空港からのモノレール沿線等アクセス性が高い那覇市内に多数。件数が多いため、分宿で参加者受け入れも可能。

#### ●沖縄ならではの滞在経験

高いホスピタリティに加え、施設内の滞在だけでも、参加者に沖縄開催のメリットであるリゾート感を提供することができる。

県内に主なシティホテル・リゾートホテルが約80件あり、エリア別、クラス別、コンセプト別にきめ細かく対応可能。

## 5. 多様なニーズへの対応

### 3. ユニークベニューの活用

※会議開催時のエクスカーションの受入れ実績も多数

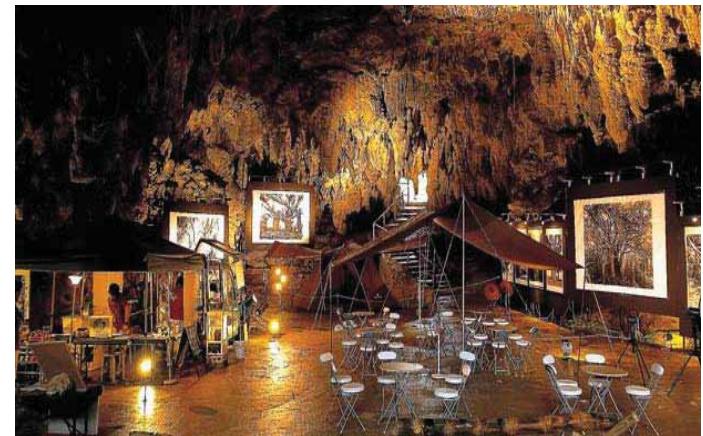
#### ●美ら海水族館(本部町)

沖縄の海を再現した水族館。名スポット「黒潮の海」水槽前では、大型魚が悠々と泳ぐ大水槽をバックに、海の中にいるかのような幻想的な雰囲気でレセプション等が可能(立食100人、着席70人)。



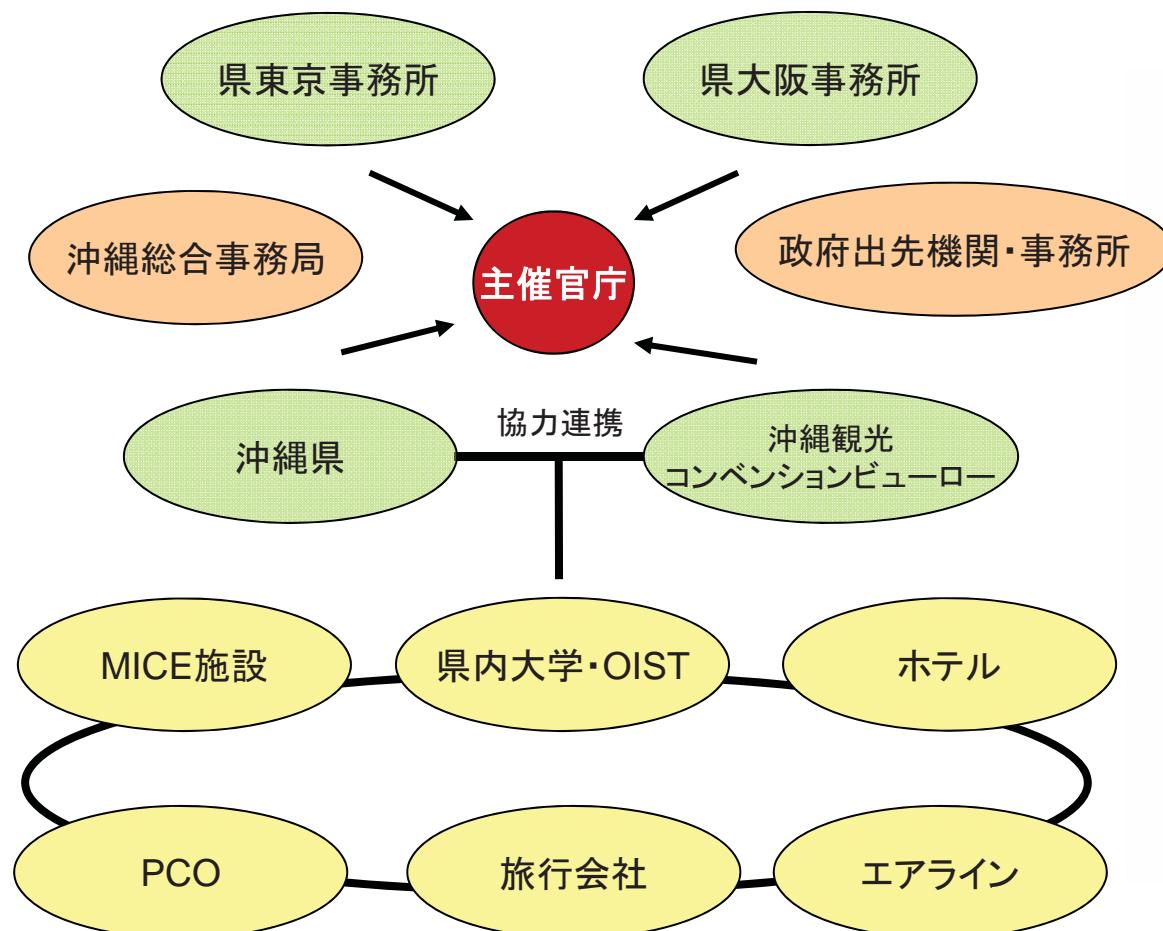
#### ●ガンガラーの谷(南城市)

数十万年前の鍾乳洞が崩壊してできた谷間。エントランスホールとなっているガンガラーの谷入口の天然の鍾乳洞のカフェにて、団体で貸し切り利用が可能(100人まで)。



# 5. 多様なニーズへの対応

## 4. 県内関係者によるバックアップ



# 6. 受入体制の拡充

## 1. 大型MICE施設の整備

### ●課題

近年、既存施設の規模不足により、拡大しているMICEの開催需要を十分に満たすことができず、誘致に結びつかない事例が増加。

### ●備えるべき要件

#### 1. 施設機能

- シアター形式：10,000人規模対応（大型コンベンション）。
- 円卓ディナー形式：4,000人規模対応（インセンティブ・ツアー）。
- 大型コンサート等にも柔軟に対応。

#### 2. 関連施設の集積等

- ホテルやアフターコンベンション施設の集積、相互アクセス性の確保が必要。未集積地ではエリア開発が必要。
- 周辺ホテルには、シングル利用可能であることが望まれる。

#### 3. 那覇空港からのアクセス

- 空港から30分圏内が目安。公共交通機関によるアクセスの充実が望まれる。

### ●スケジュール

平成31年度中の完成を目指し、関係機関・団体との調整等に取り組んでいく。

## 7. 過去の開催事例

### 1. 第16回島しょ観光政策フォーラム(ITOP) 2012年11月6日～8日

■主 催 沖縄県

■参加者 タイ・プーケット県、インドネシア・バリ州、中国・海南省、韓国・済州道、スリランカ・南部州および沖縄県の計6地域の知事ら45名 ※特別参加として、大洋州のパラオ、バヌアツ、サモアから6名



(上)首里城でのウェルカムレセプション



(上)実務代表者会議



(上)共同声明調印式・プレスカンファレンス



(上)首里城でのウェルカムレセプション

## 8. 過去の開催事例

### 2. 第6回太平洋・島サミット 2012年5月25日～26日

- 主 催 外務省(首脳会議)、沖縄県(レセプション、昼食会、エクスカーション等関連行事)
- 参加国・地域 日本、太平洋島嶼国13カ国1地域(※)、オーストラリア連邦、ニュージーランド、米国(計17カ国1地域)  
(※)13カ国: クック諸島、フィジー共和国、キリバス共和国、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、ナウル共和国、パラオ共和国、パプアニューギニア独立国、サモア独立国、ソロモン諸島、トンガ王国、ツバル、バヌアツ共和国 1地域: ニウエ



#### ●沖縄主催プログラム

1. 歓迎セレモニー(於宮古島市)
2. 沖縄県知事主催昼食会(於宮古島市)
3. 第6回太平洋・島サミット交流会・高校生サミット提言式(於宮古島市)
4. 総理主催晩餐会における沖縄のうた紹介(於名護市)
5. 夫人プログラム(於恩納村)
6. お見送り(於那覇市)
7. 高校生太平洋・島サミット(於宮古島市)

ご清聴ありがとうございました。

